

「横浜マラソン」及び「トライアスロン横浜大会」における オンラインを活用した取組について

<取組を実施した背景>

新型コロナウイルスの感染拡大の影響で、昨年予定されていた「横浜マラソン 2020」（11月1日）及び「2020ITU 世界トライアスロンシリーズ横浜大会」（5月16日・17日）は、開催中止となりました。

コロナ禍により多くのスポーツ大会の参加や運動機会の制限を余儀なくされる中、これまで続けてきた両大会を感じつつ次回大会への機運を高め、多くの方々が気軽に参加できるイベントとして、オンラインを活用した取組を実施しました。具体的な内容は次のとおりです。

1 オンライン横浜マラソン

「横浜マラソン 2020」の開催日であった11月1日（日）から開始する、参加者ご自身のスマートフォンから指定のGPS トレーニングアプリを使用して、開催期間内に規定の距離を任意の場所で走っていただくイベントです。

	第1回	第2回
開催期間	11月1日(日)～14日(土)	12月1日(火)～14日(月)
種目及び対象	<ul style="list-style-type: none"> ・フル、ハーフマラソン:2005(平成17)年4月1日以前生まれ ・10km:2014(平成26)年4月1日以前生まれ で、日本国内在住(外国籍の方も含む)の方	
参加人数	1,992人	1,416人
参加料	2,500円	
参加賞	オリジナルリストバンド	オリジナルスポーツ手袋
参加特典	<ul style="list-style-type: none"> ・完走者全員に「デジタル完走証」を発行 ・完走者の中から抽選で、次大会の出走権を付与 ・参加者の中から抽選で、協賛企業などからの提供商品(特別賞)をプレゼント 	
その他	参加者の方々がオンラインマラソンを実施する中で撮影した写真を、SNS上に投稿していただく「フォトコンテスト」を実施	

【参考(横浜マラソン)】

横浜マラソンでは、文章、写真、映像等を投稿するWEBサイト「note(ノート)」を活用した「マラソンに関する食事やトレーニング等の情報の定期配信」を、9月から12月にかけて全24回実施しました。また、WEB会議システム「Zoom」を活用した、マラソン初心者又は初級者の女性ランナーを対象に基礎トレーニングやストレッチ等を学ぶ「オンライン講座」を9月から11月にかけて全3回実施しました。

2 オンライントライアスロン（正式名称：2020 World Triathlon Yokohama Online）

「2020ITU 世界トライアスロンシリーズ横浜大会」への参加を予定されていた、または次大会の参加を目指す方々が、次大会への練習やモチベーションの向上につなげることができるよう、大会公式サイトオンラインイベント専用サイトを使用して、開催期間内に各種目（スイム・バイク・ラン）に挑戦していただき、計測を行うイベントです。

	【マイチャレンジ】	【ワールドチャレンジ】
概 要	既定の距離に挑戦した際のベストタイムを入力できます。また他の参加選手(国内・海外のエリート選手を含む)の記録を一覧で確認できます。	期間中に挑戦した距離を入力することができます。また、参加者全員の距離を合計し、世界トライアスロンの開催都市を地図上で転戦し、1周(約 93,000 * _{km})達成を目指します。
開催期間	2020(令和2)年 12 月 1 日(火)～2021(令和3)年 1 月 11 日(月・祝)	
種目及び対象	エイジ・パラ(小学生・中学生) ・スイム:400m(200m) ・バイク:20km(10km) ・ラン: 5km(2km)	エイジ・パラ・小学生・中学生 (スイム・バイク・ランともに距離の規定はなし)
参加人数	172 人	183 人
参加料	無料	
参加賞	なし	
参加特典	【マイチャレンジ】に参加された方は、イベント終了後にベストタイムの「オリジナル記録証」を発行	

【参 考（トライアスロン横浜大会）】

トライアスロン横浜大会では、これまで継続してきた大会の「絆」を未来につなげるため、「2020ITU 世界トライアスロンシリーズ横浜大会」に代わるイベントとして、国際トライアスロン連合の公認を受けた「Yokohama Future Project」を11月から1月にかけて実施しました。

「Yokohama Future Project」の具体的な取組ですが、トライアスロンの普及や子どもたちの健康増進に係るイベント、オリンピックやパラリンピアンによる実技セミナー、そしてこのオンライントライアスロンとなっています。

令和2年度健康づくり・スポーツ推進特別委員会中間報告書 構成（案）

1 付議事件

運動による介護予防等あらゆる世代の健康づくり及び大規模スポーツイベント開催やスポーツ関連施設の整備等スポーツの振興に関すること。

2 調査・研究テーマ

時代の変化を見据えた、誰もが取り組める新しい運動・健康習慣について

3 テーマ選定の理由

昨今の新型コロナウイルス感染症禍において、市民の日々の運動機会が制限され、多くの人々の運動習慣は減退し、1日当たりの歩数の減少や健康状態の悪化等の影響も報告されている。こうした状況の中で、ICTツールやデータの活用など、テクノロジーを駆使した新しい形の健康づくりの取組が求められている。

また、東京2020オリンピック・パラリンピックの開催を来年に控え、インクルーシブスポーツなどの年齢や障害の有無等に関わらず誰もが取り組めるスポーツが注目されており、誰もが身近な環境で運動に取り組むことができる土壌も醸成されつつあることから、今年度は、このような時代の変化を見据えた、誰もが取り組める新しい運動・健康習慣について調査・研究することとした。

4 委員会活動の経緯等

(1) 7月9日 委員会開催（第1回）

ア 議題

令和2年度の委員会運営方法について

今年度の委員会運営方法について意見交換を行った。

イ 委員意見概要（委員会における委員意見等を記載）

(2) 9月17日 委員会開催（第2回）

ア 議題

令和2年度の委員会運営方法について

第1回委員会の意見交換を踏まえ、調査・研究テーマについては「時代の変化を見据えた、誰もが取り組める新しい運動・健康習慣について」と決定した。

イ 当局説明概要

調査・研究テーマに関連する本市施策等について、次のとおり当局から説明を聴取した後意見交換を行った。

【説明局】市民局、健康福祉局

・横浜市スポーツ推進計画に基づく取組（当局説明の概要を記載）

ウ 委員意見概要（委員会における委員意見等を記載）

(3) 11月27日 委員会開催（第3回）

ア 議題

参考人の招致について

イ 委員会開催概要

本委員会の付議事件に関連して、次回委員会において参考人からの意見聴取を行うことを決定した。

参考人：株式会社NTT データ経営研究所情報戦略事業本部

ビジネストランスフォーメーションユニット コンサルタント

梶原 侑馬氏

案件名：時代の変化を見据えた、誰もが取り組める新しい運動・健康習慣について

(4) 11月30日 委員会開催（第4回）

ア 議題

時代の変化を見据えた、誰もが取り組める新しい運動・健康習慣について

イ 参考人講演概要（参考人の講演の概要を記載）

ウ 委員意見概要（委員会における委員意見等を記載）

(5) 2月9日 委員会開催（第5回）

ア 議題

調査・研究テーマ「時代の変化を見据えた、誰もが取り組める新しい運動・健康習慣」について

イ 当局説明概要

調査・研究テーマに関連する本市施策等について、次のとおり当局から説明を聴取した後意見交換を行った。

【説明局】市民局

・「横浜マラソン」及び「トライアスロン横浜大会」におけるオンラインを活用した取組について（当局説明の概要を記載）

ウ 委員意見概要（委員会における委員意見等を記載）

(6) 次回委員会（第6回）

当日の概要を記載

5 時代の変化を見据えた、誰もが取り組める新しい運動・健康習慣についてのまとめ

委員意見等から導き出される本委員会のまとめを記載